

【第55回】

夏が近づき、草木の生い茂る季節となりました。屋外での活動が気持ちよく感じられる一方で、「マダニ」に注意する必要があります。今回は、身近に潜むマダニの危険性、咬まれた時の対処、そして重篤な感染症についてご紹介いたします。

【マダニは身近にいます】

マダニは野山だけでなく、公園や庭先など、私たちの身近な場所にも生息しています。草むらや落ち葉の多い場所に潜み、動物や人に付着して吸血します。特に、北海道では春から秋にかけてマダニの活動が活発になるため、外出時には十分な注意が必要です。

【マダニに噛まれたら】

マダニに咬まれても、すぐには痛みやかゆみが出ないことがあります。しかし、無理に引きはがすと、口の部分が皮膚に残って炎症を起こすことがあります。マダニが皮膚に付着した際は、無理にとろうとせず、医療機関(皮膚科など)を受診し、適切に処置してもらいましょう。また、数週間は体調の変化にも注意が必要です。

【マダニが引き起こす重症感染症】

マダニはさまざまな病原体を媒介します。なかでも「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」は命に関わる危険な疾患です。発熱、嘔吐、下痢、血小板の減少などを特徴とし、重症化すると、血小板が減少して血が止まらなくなったり、腎臓の機能が低下したりして死亡することがあります。少し前に、獣医師が診療中に猫に潜んでいたマダニに咬まれ、SFTSを発症して亡くなるという事例も報告されました。野外で活動する方や動物と接する機会の多い方は特に注意が必要です。

屋外で過ごす時間が楽しい季節こそ、適切な服装や虫よけ対策を心がけ、安全に自然と触れ合いましょう。体調に異変を感じたら、早めの受診が大切です。(文責:佐藤 浩樹)